子どもの成長の素晴らしさに感動する日々、身の縮む思いの仕事だけど自分に返ってくる喜びは大きい。

これが生きがいかもしれない。お迎えに来たお母さんに、元気な姿の子どもと、一日のあゆみノートを手渡す。またあしたね。笑って帰る子ども達を見送りながら、これも女性ならではの生き方だと感じます。

母として生きる

芦沢恵子さん
中里(35歳)

1年前のクリスマスプレゼントを約束を守らない理由でもらえなかった長男、その反動で今年は何万円ものラジコンを欲求してきました。

そこで「お母さんおもちゃのためにパートで働こうかな？」と子ども達に尋ねてみました。長男は「行けば！」長女は「学校から帰ってお母さんがいないのはいや」「おやつを作ってもらえないから…」と次男、やはり私でなければ与えられない親子の愛情は物や金では代用できないな、と思いました。

この世に男と女がいる以上、女は男にない特性を生かすべきだと痛感しました。私は、便利な生活から生まれる余暇を有効に過ごし子どもと共に前進して行くつもりです。

〔さあー、ここをもう一度復習して〕

充実した人生を

長田広美さん
今泉(19歳)

昨年の3月高校を卒業し、ただ漠然と大学の英文科に進学した私。

こんな私が去年の夏休み、ある学習塾の講師として、中学生を中心に教える機会に恵まれ、今も続けています。生徒達と私は、年齢もそんなに違わないせいか兄弟のような感じですが、私の言葉や態度に鋭い反応を示すこともあり、教える事の難しさや自分の未熟さを痛感しました。

しかし、同時にやりがいのある仕事に出合い、この先も一つでも多くの知識を身につけ、大学での専攻以外にも見聞を広め、その中から女性としての生き方を模索したいと思っています。

私もいずれ結婚し、家庭を持つと思いますが、単に家庭婦人にとどまらず、職業婦人、いえ一人の社会人として充実した人生を歩む事、これが女である私の生き方の理想です。

全国女子駅伝で区間5位を記録、チームの上位進出に貢献した。

後藤泰江(やすえ)さん

(岳陽中学2年)

一月二十二日京都市で開かれた第二回全国都道府県対抗女子駅伝大会に県代表チームの一員として参加。みごと区間五位の力走でチームの目標を上まわる十五位と、上位進出の原動力となった岳陽中二年の後藤泰江さん。小学校六年の時から走り始め、岳陽中に入学後、陸上部顧問の山口先生の指導のもとにめきめき頭角を表してきました。

山口先生は、素質もすばらしいし、性格も弱音をはかずコツコツがんばるタイプなので長距離に向いています。

将来も長距離選手としてがんばってほしいですね。と語ってくれました。

後藤さんにタスキを待っている時の気持はと聞くと、「チームの為にぬけるだけぬいてやろうと思っていました」と意志の強いところをチラリ。

音楽が好きで、ただ今、エレクトーンに夢中です。という彼女に、今後もおおいに期待したいものです。